

d. こどもの朝食と外遊び

次の図6は、図3と同様、普段よくする外遊びを選んでもらった結果について、朝食の習慣によるグループごとの平均を求めたものである。朝食をしっかりと食べる子どもほど、選択される外遊びの数が多く、外遊びを活発に行っていることが分かる。

次のグラフは、数量化 III 類による分類の結果から抽出した典型的な外遊び 11 項目のうち、よくする遊びとして選択された項目の数を示している。

〔抽出した 11 項目〕

石拾いなど、昆虫採集や木の実拾いなど、泥んこ遊び、砂遊び、公園の遊具、基地遊び、自転車や三輪車・一輪車、ボール遊び、追いかっこやかけっこ、ヒーロー（ヒロイン）ごっこ、なわとび・ゴムとび

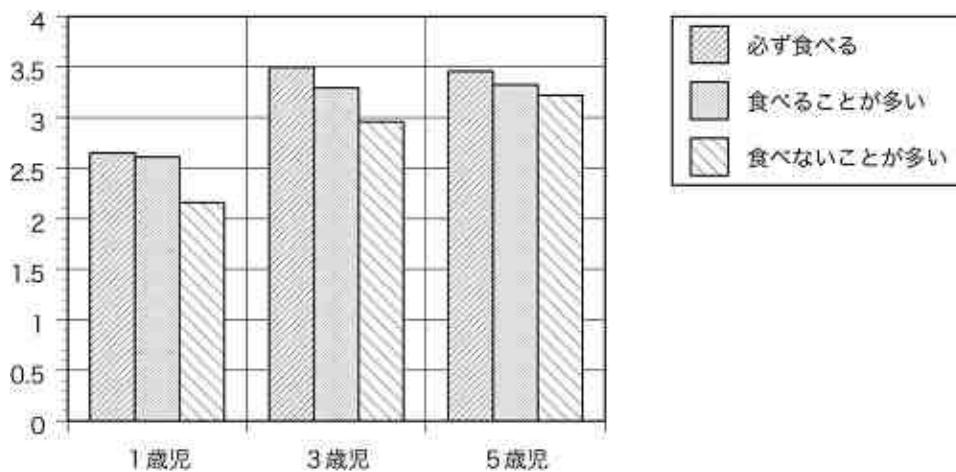


図6 朝食と外遊び

まとめ

子どもたちの朝は慌ただしい。起床から30分以内に朝食を摂り、登園する子どもも多い。また、数は多くはないが、朝食を食べないことが多い子どもたちもいる。朝食を食べないことは1日を活発に活動することを妨げており、深刻に受け止める必要がある。

子どもたちの朝食の習慣には養育者の食習慣の影響もあるようであり、大人も含めた朝食の必要性の啓発、具体的なレシピの紹介といった活動を行う必要があるだろう。そのうえで、余裕を持った起床、家族そろっての朝食という、朝の生活習慣の育成をめざした積極的な取り組みを進めていく必要がある。

(4) こどもの遊び

乳幼児期に楽しく思う存分遊ぶことで、まわりへの興味や関心、人とのつながりを持ち、こどもは自立へと向かい始める。こどもにとって、遊びは生活そのものであり、成長には欠かすことのできないエネルギーの源である。今、こどもたちはどのような遊びを好み、誰と遊んでいるのだろうか。

a. 家の中での遊び

表18 最近家の中でよくしている遊び

	1位	2位	3位	4位	5位
1歳児	絵本を見る (66.4%)	携帯電話や鍵などで遊ぶ(大人のまね) (43.6%)	乗用玩具(手押し車やまたがる車など) (31.4%)	乗り物のおもちゃ(鉄道模型ミカドなど) (30.8%)	こども向けビデオやDVDを見る (30.5%)
3歳児	絵本を見る (44.9%)	こども向けビデオやDVDを見る (39.6%)	お絵かき (35.5%)	テレビを見る (29.6%)	ブロック (29.2%)
5歳児	お絵かき (51.0%)	テレビを見る (46.0%)	絵本を見る (36.2%)	テレビゲームや携帯型ゲーム機 (33.5%)	こども向けビデオやDVDを見る (29.0%)
全体	絵本を見る (46.1%)	お絵かき (39.1%)	テレビを見る (36.2%)	こども向けビデオやDVDを見る (33.0%)	ブロック (24.1%)

各年齢とも「絵本を見る」が上位を占め、また3・5歳になるとお絵かきを楽しむこどもたちも多い。その他、人形やブロック等の玩具での遊びも比較的高い割合で選ばれており、家の中では、おもに静的な遊びをしていることが分かる。なかでもテレビ、ビデオ、DVD、ゲーム機等を使った遊びが圧倒的に多く、年齢があがるほどこれらの遊びが優位を占めるようになる。これらは一人で遊ぶことが多いため、人と関わりをもつ機会が少なくなるとともに、バーチャルな世界に浸ることも懸念される。

b. 休日の過ごし方

休日の過ごし方については、「家族で出かける」「近くの公園で遊ぶ」等9項目の中から当てはまるものを3項目まで選んでもらった。

表19 休日の過ごし方

	1位	2位	3位	4位
1歳児	家族で出かける(行楽地ショッピングなど) (85.4%)	家の中で家族と遊んでいる (57.9%)	家族と近くの公園で遊ぶ (53.3%)	祖父母宅などに遊びに行く (51.3%)
3歳児	家族で出かける(行楽地ショッピングなど) (87.2%)	家の中で家族と遊んでいる (50.6%)	家族と近くの公園で遊ぶ (46.4%)	祖父母宅などに遊びに行く (44.7%)
5歳児	家族で出かける(行楽地ショッピングなど) (84.1%)	家の中で家族と遊んでいる (52.6%)	家族と近くの公園で遊ぶ (41.6%)	祖父母宅などに遊びに行く (40.2%)
全体	家族で出かける(行楽地ショッピングなど) (85.4%)	家の中で家族と遊んでいる (53.2%)	家族と近くの公園で遊ぶ (45.9%)	祖父母宅などに遊びに行く (44.3%)

3つの年齢群とも上位はまったく同じであった。休日の過ごし方としては「家族で出かける」が圧倒的に多い。保育所や幼稚園で子どもたちに関わる立場からすれば、平日は慌ただしい生活を送っていることを考えると、休日は家族でゆっくりと過ごしてほしいという思いもある。ただし、外出の理由が養育者主体の買い物であっても、子どもにとっては重要な生活経験のひとつと考えることもでき、こうした結果を一概に望ましくないものとは言い切れまいだろう。一方、2位と3位には「家の中で遊ぶ」と「公園で遊ぶ」がいずれも半数程度選ばれており、休日に家族で過ごすことを大切にしているということもまた事実である。

表20 休日の家での遊び

	1位	2位	3位	4位	5位
1歳児	絵本を見る (54.0%)	乗り物のおもちゃ(鉄道 模型、ミカーなど) (22.6%)	お絵かき (21.1%)	積み木 (20.3%)	手遊び(げんこつ山のた ぬきさんなど) (19.8%)
3歳児	絵本を見る (31.5%)	お話を する (28.5%)	お絵かき (26.5%)	子ども向けビデオやDVD を見る (26.3%)	ブロック (22.6%)
5歳児	トランプやかるたなど (29.6%)	お絵かき (28.4%)	お話を する (25.6%)	テレビゲームや携帯型 ゲーム機 (25.6%)	テレビを見る (25.5%)
全体	絵本を見る (31.4%)	お絵かき (25.9%)	お話を する (23.8%)	子ども向けビデオやDVD を見る (21.7%)	テレビを見る (19.4%)

休日に家でよくする遊びについては、平日に家でよくする遊び(表18)とあまり変わらないが、テレビ等メディア関連の遊びの割合が比較的低くなっており、休日は養育者が積極的に子どもに関わろうとしている様子が伺える。また、5歳児で「トランプやかるたなど」が1位になっており、年齢があがると、家族とともに勝ち負けのある遊び、記憶力や集中力を必要とする知的要素を持つ遊びを楽しむようになる。

c. 絵本との関わり

表21 絵本の所有数

	10冊未満	10~20冊	21~30冊	31冊以上	ない	無回答	全体	平均(冊)
1歳児	219 31.7%	234 34.8%	92 13.7%	127 18.9%	3 0.4%	3 0.4%	672 100.0%	16.9
3歳児	93 9.3%	299 30.0%	221 22.1%	379 38.0%	2 0.2%	4 0.4%	998 100.0%	23.9
5歳児	132 10.6%	340 27.3%	249 20.0%	519 41.7%	2 0.3%	4 0.3%	1246 100.0%	24.3
全体	438 15.0%	873 29.9%	562 19.3%	1025 35.2%	7 0.2%	11 0.4%	2916 100.0%	

表22 絵本を読む頻度

	毎日読む	週に2~3度く らい読む	1週間に1度 くらい読む	あまり読まな い	読まない	無回答	全体	平均(回)
1歳児	275 40.9%	186 27.7%	72 10.7%	126 18.8%	10 1.5%	3 0.4%	672 100.0%	1.9
3歳児	298 29.9%	275 27.6%	184 18.4%	216 21.6%	19 1.9%	6 0.6%	998 100.0%	3.2
5歳児	230 18.5%	281 22.8%	243 19.5%	429 34.4%	59 4.7%	4 0.3%	1246 100.0%	2.3
全体	803 27.5%	742 25.4%	499 17.1%	771 26.4%	86 3.0%	13 0.4%	2916 100.0%	

絵本の保有数の平均は、約2.2冊。1冊もないと答えた家庭はごくわずかであり、子どもたちは潤沢な絵本環境のもとで暮らしている。一方、絵本を読む頻度は「毎日読む」、「週2、3度くらい読む」の家庭と「1週間に1度くらい読む」、「あまり読まない」の家庭が半数ずつに分かれ、意識にやや落差を感じる。また年齢があがると絵本の読み聞かせが減少する。子どもの興味のある遊びが増えたことによる絵本はなれや、文字が読めるようになって1人で絵本を読もうとする姿を、養育者は子どもの成長・自立と捉えているのではないかと考えられる。しかしながら、絵本の読み聞かせには、絵本の世界を大人と子どもと一緒にイメージし、楽しむ役割がある。養育者と子どもがこうした経験を共有することは、子どもの年齢があがっても子どもの想像の世界を広げるうえで重要であり、意識して取り組むことが望まれる。

また、絵本の所有数と読む頻度についてクロス集計を取ると、次の表のようになり、絵本の保有数と読む頻度とは正比例していることが分かる。

表23 絵本の数と子どもに絵本を読む頻度の関係

		絵本を読む頻度					合計	
		毎日読む	週に2,3度くらい読む	1週間に1度くらい読む	あまり読まない	読まない		
絵本の数	10冊未満	度数	80	85	65	178	33	441
		%	18.10%	19.30%	14.70%	40.40%	7.50%	100.00%
	10~20冊	度数	189	223	168	274	20	874
		%	21.60%	25.50%	19.20%	31.40%	2.30%	100.00%
	21冊~30冊	度数	133	163	114	135	17	562
		%	23.70%	29.00%	20.30%	24.00%	3.00%	100.00%
	31冊以上	度数	402	276	155	184	17	1034
		%	38.90%	26.70%	15.00%	17.80%	1.60%	100.00%
合計	度数	804	747	502	771	87	2911	
	%	27.60%	25.70%	17.20%	26.50%	3.00%	100.00%	

d. テレビの視聴時間

表24 年齢別の視聴時間

		テレビの視聴時間						合計	平均(分)
		見ない	30分まで	30分~1時間	1~2時間	2~3時間	3時間以上		
1歳児	度数	25	68	186	200	123	61	663	85.9
	%	3.8%	10.3%	28.1%	30.2%	18.6%	9.2%	100.0%	
3歳児	度数	12	71	272	388	200	55	998	88.1
	%	1.2%	7.1%	27.3%	38.9%	20.0%	5.5%	100.0%	
5歳児	度数	12	39	279	526	298	95	1249	98.2
	%	1.0%	3.1%	22.3%	42.1%	23.9%	7.6%	100.0%	
全体	度数	49	178	737	1114	621	211	2910	
	%	1.7%	6.1%	25.3%	38.3%	21.3%	7.3%	100.0%	

各年齢とも約2時間程度、テレビを視聴している。テレビをほとんど見ていない子どもは2%以下で非常に少なく、各家庭でのテレビ視聴の高さが伺える。年齢があがるとテレビの視聴時間が増える傾向があるが、1歳児では9%が3時間以上テレビを見ており、幼い時期から長時間テレビを見ている子どもたちがいる。

自由記述からは、1歳児では、子ども自らが積極的にテレビを見ているというよりは、養育者自身がついてテレビを付けっぱなしにしてしまい、それが結果的に、子どもが長時間テレビと関わ

ることになっている、あるいは養育者が家事をする間に子どもにテレビを見させている状況が浮かびあがってくる。

テレビの視聴時間と絵本を読む頻度との間でクロス集計を取ると、視聴時間が長くなるほど絵本を毎日読むと答える割合は減少し、逆にあまり読まない割合は増える。

表 25 テレビの視聴時間と子どもに絵本を読む頻度

		絵本を読む頻度					合計
		毎日読む	週に2,3度くらい読む	1週間に1度くらい読む	あまり読まない	読まない	
テレビの 視聴時間	見ない	度数 24 % 49.0%	12 24.5%	4 8.2%	7 14.3%	2 4.1%	49 100.0%
	30分まで	度数 73 % 41.0%	52 29.2%	24 13.5%	24 13.5%	5 2.8%	178 100.0%
	30分～1時間	度数 240 % 32.6%	213 28.9%	130 17.7%	140 19.0%	13 1.8%	736 100.0%
	1～2時間	度数 302 % 27.2%	283 25.5%	198 17.8%	292 26.3%	36 3.2%	1111 100.0%
	2～3時間	度数 126 % 20.5%	137 22.2%	122 19.8%	210 34.1%	21 3.4%	616 100.0%
	3時間以上	度数 41 % 19.4%	48 22.7%	24 11.4%	90 42.7%	8 3.8%	211 100.0%
	合計	度数 806 % 27.8%	745 25.7%	502 17.3%	763 26.3%	85 2.9%	2901 100.0%

右の図は、「子どもと話をするのは楽しい」「できるだけ子どもと話をするようにこころがけている」の質問に、あてはまらない(1)～あてはまる(4)で答えた結果について、テレビの視聴時間毎に平均値を求めたものである。全体にあてはまると答える割合は高いが、子どもが長時間テレビを見る家庭ほど子どもとの関わりが薄くなっていく傾向を読み取ることができる。

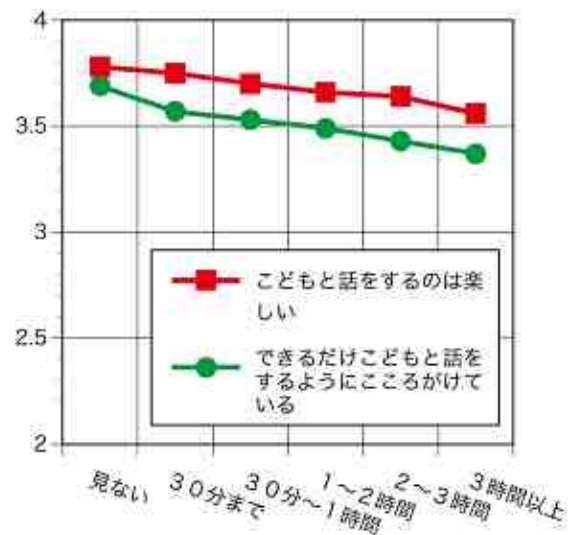


図7 子どもテレビの視聴時間と子どもとの関わり

「子どもと話をするのは楽しい」「できるだけ子どもと話をするようにこころがけている」の質問への答え:あてはまる(4)～あてはまらない(1)の4件法

e. テレビゲーム・携帯型ゲーム機の使用

表26 年齢別のテレビゲーム・携帯ゲームの使用時間

		使用時間						合計	平均(分)
		しない	30分まで	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上		
1歳児	度数	606	5	1	0	2	0	614	0.8
	%	98.7%	0.8%	0.2%	0.0%	0.3%	0.0%	100.0%	
3歳児	度数	724	148	83	20	7	1	983	9.1
	%	73.7%	15.1%	8.4%	2.0%	0.7%	0.1%	100.0%	
5歳児	度数	550	281	252	126	29	7	1245	26.3
	%	44.2%	22.6%	20.2%	10.1%	2.3%	0.6%	100.0%	
全体	度数	1880	434	336	146	38	8	2842	
	%	66.2%	15.3%	11.8%	5.1%	1.3%	0.3%	100.0%	

年齢があがるにつれて、ゲームをする割合が増える。特に5歳児になると、半数以上がゲームをしている。ゲームをしない子どもも含めた平均使用時間は表26の通りであるが、ゲームをする子どもに限って平均を求めると、3歳児で34.4分、5歳児で46.8分と、ゲームをする子どもは平均30分以上ゲームをしている。

さらに、ゲームをする時間とテレビの視聴時間のクロス集計を求めると、次の表のようになる。テレビを長く見る子どもはゲームも長時間する傾向があることが分かる。

表27 テレビの視聴時間とテレビゲーム・携帯ゲームの使用時間

		テレビゲーム・携帯ゲームの使用時間							
		しない	30分まで	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上	合計	
テレビの 視聴時間	見ない	度数	46	1	0	1	0	1	49
	%	93.9%	2.0%	0.0%	2.0%	0.0%	2.0%	100.0%	
	30分まで	度数	151	15	7	1	0	0	174
	%	86.6%	8.6%	4.0%	0.6%	0.0%	0.0%	100.0%	
	30分～1時間	度数	536	108	61	14	1	0	720
	%	74.4%	15.0%	8.5%	1.9%	0.1%	0.0%	100.0%	
	1～2時間	度数	667	182	159	61	10	0	1079
%	61.8%	16.9%	14.7%	5.7%	0.9%	0.0%	100.0%		
2～3時間	度数	356	97	84	44	14	2	597	
%	59.6%	16.2%	14.1%	7.4%	2.3%	0.3%	100.0%		
3時間以上	度数	117	31	23	22	6	5	204	
%	57.4%	15.2%	11.3%	10.8%	2.9%	2.5%	100.0%		
合計		度数	1873	434	334	143	31	8	2823
		%	66.3%	15.4%	11.8%	5.1%	1.1%	0.3%	100.0%

f. 戸外での遊び

いずれの年齢でも70%以上が戸外に遊ぶスペースがあると答えており、大阪市内という都心部であるにもかかわらず、外遊びをするスペースがあると養育者は認識している。ただし、それが十分なものであるかどうかという点については、議論の余地がある。自由記述の中で養育者の困っていることで多くあげられるのもまた戸外の遊び場、公園についてであり、のびのびと遊べる場、こどもが被害者になる事件への不安、公園の遊具等、多岐にわたっている。安心して遊ぶことのできる公園環境の整備を求めていることが伺える。

次の表は戸外でよくする遊びを5つまで選択した結果である。公園の遊具がいずれの年齢でも1位を占め、戸外遊びの場として公園が大きな位置を占めていることが分かる。家の前や空き地等の公園以外の場所が今は安全な場所にはなっていないとの不安が、逆に公園の役割・期待を高めているのかもしれない。

表28 戸外の遊ぶスペースの有無

		ある	ない	合計
1歳児	度数	490	141	631
	%	77.70%	22.30%	100.00%
3歳児	度数	735	203	938
	%	78.40%	21.60%	100.00%
5歳児	度数	884	279	1163
	%	76.00%	24.00%	100.00%
全体	度数	2109	623	2732
	%	77.20%	22.80%	100.00%

表29 戸外での遊び

	1位	2位	3位	4位	5位
1歳児	公園の遊具 (79.9%)	砂遊び (61.0%)	陸上や坂を登る (46.4%)	ボール遊び (38.1%)	追いかっこやかけっこ (31.3%)
3歳児	公園の遊具 (80.3%)	自転車や三輪車、一輪車 (63.0%)	砂遊び (51.1%)	追いかっこやかけっこ (45.1%)	ボール遊び (36.8%)
5歳児	公園の遊具 (73.0%)	自転車や三輪車、一輪車 (71.6%)	追いかっこやかけっこ (45.7%)	ボール遊び (39.9%)	砂遊び (30.6%)
全体	公園の遊具 (77.1%)	自転車や三輪車、一輪車 (54.9%)	砂遊び (44.6%)	追いかっこやかけっこ (42.2%)	ボール遊び (38.4%)

g. 遊び相手

表30 外遊びの相手

	親	祖父母	同年齢の子	年上の友達	年下の友達	あそびたいひと	ひとり	その他	合計
1歳児	度数 497	25	51	1	22	118	24	10	864
	% 61.30%	3.0%	1.70%	0.20%	3.80%	17.80%	3.60%	2.40%	100.00%
3歳児	度数 339	29	233	4	43	311	21	17	997
	% 34.00%	2.90%	23.20%	0.40%	4.30%	31.20%	2.10%	1.70%	100.00%
5歳児	度数 300	28	393	30	55	434	17	25	1244
	% 24.10%	2.30%	38.90%	2.40%	4.40%	34.90%	1.40%	2.00%	100.00%
全体	度数 1046	82	834	35	120	863	62	58	2924
	% 36.00%	2.80%	27.80%	1.20%	4.10%	29.70%	2.10%	2.00%	100.00%

表31 家の中の遊び相手

	親	祖父母	同年齢の子	年上の友達	年下の友達	あそびたいひと	ひとり	その他	合計
1歳児	度数 343	13	4	0	0	202	10	4	567
	% 64.70%	2.80%	0.60%	0.00%	0.00%	38.30%	1.90%	0.60%	100.00%
3歳児	度数 276	31	9	1	8	513	57	8	1000
	% 27.60%	3.10%	0.90%	0.10%	0.80%	51.30%	5.70%	0.80%	100.00%
5歳児	度数 188	10	43	4	10	704	188	9	1244
	% 14.80%	1.50%	3.40%	0.30%	0.80%	63.40%	15.00%	0.70%	100.00%
全体	度数 829	54	56	5	18	1312	415	21	2924
	% 29.20%	2.40%	1.90%	0.20%	0.60%	51.30%	14.30%	0.70%	100.00%

家の中ではきょうだいとよく遊んでおり、戸外では、親と遊ぶことが多い。安全への配慮から、戸外では養育者の目の届くところで遊ばせているということなのだろう。また、きょうだい遊ぶ割合は高いが、自由記述をみると、きょうだいげんかに頭を悩ませている養育者も多く、養育者の悩みはつきない。

一方、年下や年上の友達と遊ぶことは少なく、異年齢の交流はかなり少なくなっている。自由記述でも、近所に遊び相手となるこどもがないことが悩みとしてあげられており、現在では保

育所・幼稚園のような場でなければ異年齢の交流が確保できない状況にあることが分かる。保育所・幼稚園が積極的に集団遊びの場や機会を提供していくことが求められている。

h. 伝承遊びの経験

次の表は、伝承遊びについて子どもが経験したことがあるかどうかを尋ねたものである。子どもの年齢が高くなるにつれて伝承遊びの経験が増えていることが分かる。幼稚園や保育所でも積極的に取り組んでおり、そうしたこともこの結果に反映していると考えられる。これらの遊びは、時代を越えて子どもたちに受け継がれてきたものであるとともに、身体全体を使い、また指先を使って、身体的なふれあいを体験し、さらには集団での活動の楽しさを体験できるという点で子どもたちの発達にとって重要な役割を果たしている。保育所・幼稚園で今後も積極的に取り入れていくことが望まれる。

表32 こどもの伝承遊び

	1歳児	3歳児	5歳児	全体
(1) いないいないばあ	(87.4%)	いないいないばあ (89.6%)	いないいないばあ (87.6%)	いないいないばあ (88.2%)
(2) にらめっこ	(31.7%)	にらめっこ (72.8%)	かるた (86.1%)	にらめっこ (68.2%)
(3) 紙ふうせん	(30.8%)	紙ふうせん (66.5%)	鬼ごっこ遊び (85.0%)	紙ふうせん (63.1%)
(4) お手玉	(12.1%)	鬼ごっこ遊び (59.4%)	にらめっこ (84.1%)	鬼ごっこ遊び (59.1%)
(5) 鬼ごっこ遊び	(10.6%)	かるた (54.8%)	紙ふうせん (77.8%)	かるた (56.5%)
(6) こままわし	(7.9%)	こままわし (43.4%)	こままわし (74.2%)	こままわし (48.4%)
(7) なべなべそこぬけ	(6.7%)	なべなべそこぬけ (41.1%)	あやとり (73.0%)	なべなべそこぬけ (42.5%)
(8) まりつき	(5.1%)	ケンパ (36.7%)	ゆびずもう (68.2%)	あやとり (41.9%)
(9) けん玉	(4.3%)	お手玉 (32.9%)	すごろく (67.5%)	ゆびずもう (41.0%)
(10) だるま落とし	(4.2%)	ゆびずもう (32.7%)	たこあげ (63.6%)	けん玉 (39.2%)
(11) かるた	(4.2%)	たこあげ (32.5%)	けん玉 (63.6%)	すごろく (39.0%)
(12) あんたがたどこさ	(4.2%)	けん玉 (32.4%)	なべなべそこぬけ (62.8%)	たこあげ (39.0%)
(13) グリコ(じゃんけん遊び)	(4.2%)	あやとり (29.3%)	お手玉 (56.3%)	お手玉 (38.1%)
(14) かごめかごめ	(3.7%)	すごろく (28.8%)	グリコ(じゃんけん遊び) (50.5%)	ケンパ (34.8%)
(15) ケンパ	(3.3%)	グリコ(じゃんけん遊び) (25.5%)	ケンパ (50.3%)	グリコ(じゃんけん遊び) (31.2%)
(16) 竹とんぼ	(3.1%)	竹とんぼ (23.0%)	竹とんぼ (49.2%)	竹とんぼ (29.6%)
(17) あやとり	(3.0%)	まりつき (21.4%)	かごめかごめ (41.8%)	まりつき (26.0%)
(18) ゆびずもう	(3.0%)	びー玉 (21.0%)	竹馬 (41.6%)	かごめかごめ (24.8%)
(19) たこあげ	(3.0%)	おはじき (18.2%)	まりつき (40.9%)	びー玉 (23.7%)
(20) はないちもんめ	(1.9%)	かごめかごめ (17.8%)	びー玉 (38.0%)	竹馬 (20.5%)
(21) おはじき	(1.8%)	だるま落とし (14.0%)	はじめての第一歩 (37.5%)	おはじき (20.5%)
(22) 靴とばし	(1.8%)	靴とばし (13.1%)	はないちもんめ (36.6%)	はじめての第一歩 (20.2%)
(23) すごろく	(1.5%)	あんたがたどこさ (12.8%)	靴とばし (33.4%)	はないちもんめ (19.9%)
(24) はじめての第一歩	(1.5%)	はないちもんめ (11.2%)	おはじき (32.3%)	だるま落とし (19.2%)
(25) びー玉	(1.2%)	はじめての第一歩 (11.1%)	だるま落とし (31.5%)	靴とばし (19.2%)
(26) 竹馬	(1.0%)	竹馬 (7.3%)	あんたがたどこさ (28.3%)	あんたがたどこさ (17.4%)
(27) とうりゃんせ	(0.9%)	とうりゃんせ (4.9%)	とうりゃんせ (15.2%)	とうりゃんせ (8.4%)
(28) 缶けり	(0.6%)	めんこ (3.2%)	めんこ (11.5%)	めんこ (6.1%)
(29) めんこ	(0.3%)	缶けり (2.9%)	缶けり (10.3%)	缶けり (5.5%)
(30) ペーゴマ	(0.3%)	ペーゴマ (2.0%)	ペーゴマ (4.2%)	ペーゴマ (2.5%)
(31) 陣取り	(0.0%)	陣取り (1.2%)	陣取り (3.8%)	陣取り (2.0%)

i. 季節行事

次の表は家庭に取り入れられている季節行事の割合である。クリスマスや節分等、実施率の高い行事を見ると、商業ベースで関連商品が大々的に取りあげられることの多いものが多く、そうした影響を受けている側面も大きいと思われる。一方、家族の誕生日も非常に重視されており、1人1人の家族を大切にしようとする思いを反映しているように思われる。

冬至・七草がゆ・お月見が下位に位置しているのはこの意味で象徴的である。季節感を重視するこうした行事は、上位に位置する誕生日やクリスマスのように子どもが喜ぶはなやかなイベントではなく、現代の子育て家庭が積極的に取り入れる要素が少ないと考えられる。マスコミ等で大々的に取りあげられることも少ないこうした季節の節目となる行事は、むしろ保育所や幼稚園で季節感を重視した活動の一環として取り組まれることが多く、今後も保育所・幼稚園は一定の役割を果たすことが求められる。

表33 家庭に取り入れられている季節行事

	1歳児	3歳児	5歳児	全体
(1) 家族の誕生日	(94.2%)	クリスマス (98.6%)	クリスマス (98.8%)	クリスマス (97.6%)
(2) クリスマス	(94.0%)	家族の誕生日 (95.8%)	家族の誕生日 (96.8%)	家族の誕生日 (95.9%)
(3) お正月	(91.7%)	お正月 (93.3%)	お正月 (95.9%)	お正月 (94.0%)
(4) おおみそか	(89.0%)	節分 (92.7%)	節分 (95.7%)	節分 (92.5%)
(5) 節分	(86.5%)	おおみそか (90.6%)	おおみそか (94.2%)	おおみそか (91.8%)
(6) こどもの日	(74.3%)	こどもの日 (82.2%)	七夕 (85.7%)	こどもの日 (81.4%)
(7) ひなまつり	(68.8%)	七夕 (77.9%)	こどもの日 (84.7%)	七夕 (75.9%)
(8) お盆やお彼岸	(57.4%)	七五三 (76.3%)	七五三 (84.5%)	ひなまつり (75.6%)
(9) 母の日や父の日	(56.7%)	ひなまつり (73.6%)	ひなまつり (80.9%)	七五三 (71.6%)
(10) 七夕	(54.9%)	母の日や父の日 (57.6%)	母の日や父の日 (66.3%)	母の日や父の日 (61.1%)
(11) 敬老の日	(48.5%)	お盆やお彼岸 (57.6%)	お盆やお彼岸 (61.2%)	お盆やお彼岸 (59.1%)
(12) 七五三	(40.6%)	敬老の日 (53.3%)	敬老の日 (61.1%)	敬老の日 (55.5%)
(13) 冬至	(36.5%)	冬至 (36.0%)	冬至 (40.7%)	冬至 (38.1%)
(14) 七草がゆ	(32.9%)	七草がゆ (31.6%)	七草がゆ (34.4%)	七草がゆ (33.1%)
(15) お月見	(19.0%)	お月見 (27.1%)	お月見 (29.2%)	お月見 (26.1%)

まとめ

近所に遊ぶ友達もあまり多くない中で、平日の子どもたちは家の中でテレビ、ビデオ、DVD、ゲーム機等を使った遊びをすることが多く、年長になるほどこれらの遊びが優位を占めるようになる。長時間テレビを見る子どもの中には長時間テレビゲームをする子どもも多く、こうした子どもたちは親子でふれあう機会もわずかずつ薄れていっているようである。

こうした中で、養育者に向けて親子のふれあい方、遊び方についてもっと情報提供をしていくべきであろう。また、異年齢集団での遊びが家庭ではほとんど不可能な現在、こうした経験を提供する場として保育所・幼稚園等の役割は大きい。

(5) 養育者の意識

近年、家庭の教育力が低下し、養育者の子育てで不安感が増大しているといわれる中、家庭と保育所・幼稚園の役割分担が変わってきているようにも思われる。果たして養育者は子育てについてどのように考え、保育所・幼稚園に何を期待しているのだろうか。

a. こどもに身につけさせたいこと

小学校に入学するまでにこどもに身につけさせたい事項17項目について、大切でない(1)～とても大切(5)で評定してもらった。その結果に基づいて因子分析を行い、3つの因子を抽出した。いずれの因子にも寄与しなかった2項目を除いたうえで、項目の内容から、それぞれの因子を(1) 基本的な生活習慣、(2) 学習への意欲・態度、(3) 対人的な能力と名付けた。各因子に該当する項目を次の表に示す。

表34 こどもに身につけさせたいこと

基本的な生活習慣の項目	学習への意欲・態度の項目	対人的な能力の項目
早寝早起き	自分の思いを伝える力	じっと人の話を聞く態度
言葉遣い	集中力	友だち関係を築く力
食事のマナー、偏食しない	意欲的な学習態度	思いやり
衣服の着脱	積極性	正義感や物事の善悪
	落ち着き	決まりごとを守る
	ひらがなを読めるようになる	

それぞれの尺度について、年齢別に平均点を求めて図示したものが次の図8である。

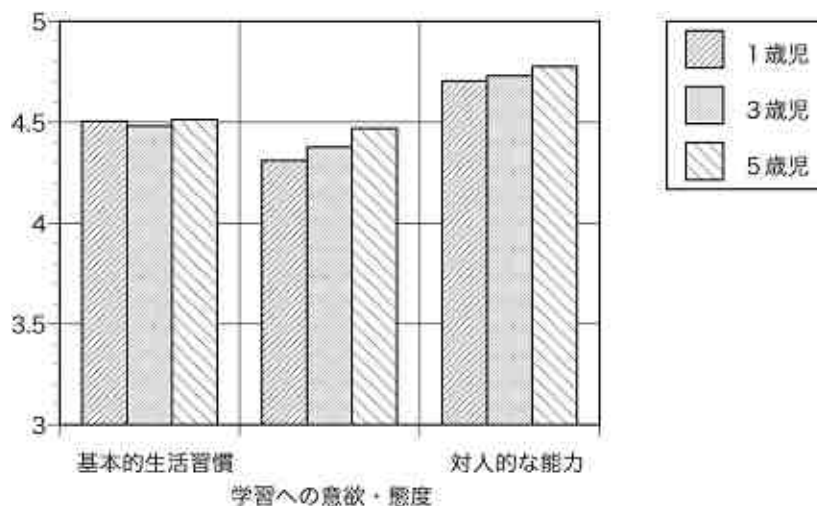


図8 こどもに身につけさせたいこと

いずれの尺度についても平均は4点を超えており、どれも身につけさせたいものとして重視されていることが分かる。ただし尺度間では多少の違いが見られ、「対人的な能力」に比べれば「学習への意欲・態度」が重視される程度は高くない。また、「学習への意欲・態度」と「対人的な能力」に関しては年齢があがるにしたがって重視される傾向が強まっており、就学に向けた養育者

の思いの変化を反映していると考えられるだろう。

次に、これらの尺度に含まれる各項目について、身につけるうえで家庭もしくは保育所・幼稚園どちらの役割が大きいと考えるのかを選んでもらい、尺度ごとの平均の割合を求めた。

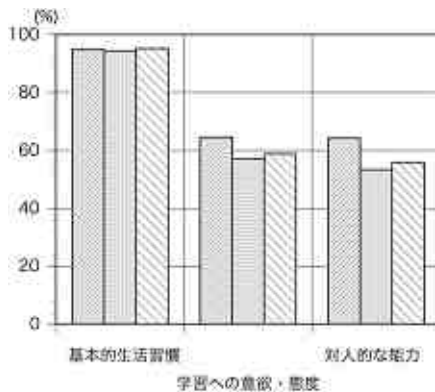


図9 「家庭の役割が大きい」が選択された割合

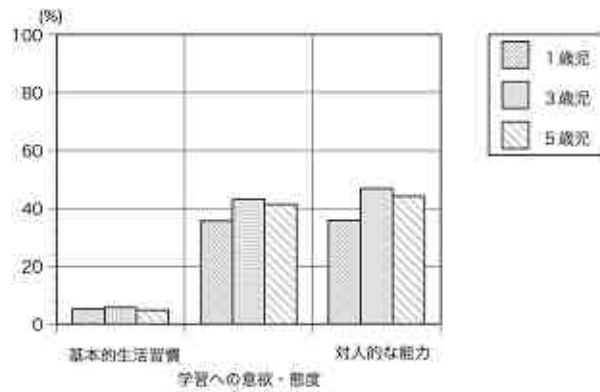


図10 「幼稚園・保育所の役割が大きい」が選択された割合

養育者の多くは、「基本的な生活習慣」については家庭で身につけさせ、「対人的な能力」及び「学習への意欲・態度」については家庭と保育所・幼稚園の双方で身につけさせたいと考えていることが読み取れる。

家庭の教育力が低下してきていると言われるが、養育者は、こどもが小さい頃からこれらの項目を身につけることは重要であると考えており、その必要性を十分に認識している。しかも、「基本的な生活習慣」についてはまずは家庭で身につけるべきものと考え、「学習への意欲・態度」や「対人的な能力」についても、保育所・幼稚園任せと考えるのではなく、家庭でも身につけさせるべきものとして考えているようである。

b. 養育者の育児に対する意識

表35 こどもと話す時間(こどもの年齢別)

		こどもと十分話す時間がある				合計
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
1歳児	度数	412	192	51	3	668
	%	61.7%	28.7%	9.1%	0.4%	100.0%
3歳児	度数	446	418	131	8	1003
	%	44.5%	41.7%	13.1%	0.8%	100.0%
5歳児	度数	509	543	187	11	1250
	%	40.7%	43.4%	15.0%	0.9%	100.0%
合計	度数	1367	1153	379	22	2921
	%	46.8%	39.5%	13.0%	0.8%	100.0%

表36 就業形態別のこどもと話す時間

		こどもと十分話す時間がある				合計
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
常時雇用	度数	124	264	154	6	548
	%	22.6%	48.2%	28.1%	1.1%	100.0%
自営業	度数	59	60	25	1	145
	%	40.7%	41.4%	17.2%	0.7%	100.0%
パート・アルバイト	度数	271	335	100	5	711
	%	38.1%	47.1%	14.1%	0.7%	100.0%
無職	度数	821	431	82	8	1340
	%	61.3%	32.2%	6.1%	0.4%	100.0%
その他	度数	85	59	15	4	163
	%	52.1%	36.2%	9.2%	2.5%	100.0%
合計	度数	1360	1149	376	22	2907
	%	48.8%	39.5%	12.9%	0.8%	100.0%

養育者の就業形態との関係(表36)でいえば、無職>自営業>パート・アルバイト>常時雇用の順でこどもと十分に話す時間があると答える割合が減少する。就労で時間に制約がある養育者ほど、こどもと話す時間がないと感じており、これは現状を反映した結果であろう。

また、こどもの年齢があがるにつれて、十分に話す時間があるという回答は減少する(表35)。自由記述を見ると、こどもが大きくなると年下のきょうだいに養育者の手が取られ、十分関わる時間が取れなくなる様子が伺える。年下のきょうだいの有無で比較すると、きょうだいのいる方がこどもと話す時間があるという答えは少なくなる。ただし、きょうだいがいなくても、こどもが大きくなると十分話をする時間があるという答えは少なくなる。したがって、年齢による変化は、こども自身の遊びの幅が広がり、養育者が関わる機会が減ったことも理由になっていると考えられるだろう。

次に、「こどもと話すのは楽しい」「こどもと話す時間を持つように心がけている」の2項目についても養育者の就労形態、こどもの年齢別に集計した(表37~40)。「時間があるかどうか」に対する回答とは異なり、養育者の就労形態による違いは見られない。働いていて十分に時間がとれない養育者であっても、そうでない養育者と同様、こどもと話すように心がけており、また話すのは楽しいと感じている。ところが、こどもが大きくなると「こどもと話すのは楽しい」と答える割合も、「こどもと話すように心がけている」と答える割合も減少する。こどもと一緒に朝食を食べる割合が減少するのと同様に、こどもの身辺自立がすすむとともにこどもとの関わりもまた緩やかに減少する。

表37 こどもと話すのは楽しい(年齢別)

		お子さんと話をしているのは楽しいと感じる				合計
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
1歳児	度数	535	124	9	0	668
	%	80.1%	18.6%	1.3%	0.0%	100.0%
3歳児	度数	590	281	30	3	1004
	%	68.7%	28.0%	3.0%	0.3%	100.0%
5歳児	度数	803	406	39	1	1249
	%	64.3%	32.5%	3.1%	0.1%	100.0%
合計	度数	2028	811	78	4	2921
	%	69.4%	27.8%	2.7%	0.1%	100.0%

表38 こどもと話すのは楽しい(就業形態別)

		お子さんと話をしているのは楽しいと感じる				合計
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
常時雇用	度数	414	123	12	0	549
	回答	75.4%	22.4%	2.2%	0.0%	100.0%
自営業	度数	101	41	3	0	145
	回答	69.7%	28.3%	2.1%	0.0%	100.0%
パート・アルバイト	度数	464	225	22	1	712
	回答	65.2%	31.8%	3.1%	0.1%	100.0%
無職	度数	929	366	40	3	1338
	回答	69.4%	27.4%	3.0%	0.2%	100.0%
その他	度数	111	51	1	0	163
	回答	68.1%	31.3%	0.6%	0.0%	100.0%
合計	度数	2019	806	78	4	2907
	回答	69.5%	27.7%	2.7%	0.1%	100.0%

表39 こどもと話すよう心がけている(年齢別)

		できるだけ、こどもと話す時間をもちよう心がけている				合計
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
1歳児	度数	430	206	29	3	668
	%	64.4%	30.8%	4.3%	0.4%	100.0%
3歳児	度数	536	400	63	5	1004
	%	53.4%	39.8%	6.3%	0.5%	100.0%
5歳児	度数	667	478	98	5	1248
	%	53.4%	38.3%	7.9%	0.4%	100.0%
合計	度数	1633	1084	190	13	2920
	%	55.9%	37.1%	6.5%	0.4%	100.0%

表40 こどもと話すよう心がけている(就業形態別)

		できるだけ、こどもと話す時間をもちよう心がけている				合計
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
常時雇用	度数	326	189	34	1	550
	回答	59.3%	34.4%	6.2%	0.2%	100.0%
自営業	度数	84	49	8	3	144
	回答	58.3%	34.0%	5.6%	2.1%	100.0%
パート・アルバイト	度数	366	284	57	3	710
	回答	51.5%	40.0%	8.0%	0.4%	100.0%
無職	度数	745	505	84	5	1339
	回答	55.6%	37.7%	6.3%	0.4%	100.0%
その他	度数	103	52	7	1	163
	回答	63.2%	31.9%	4.3%	0.6%	100.0%
合計	度数	1624	1079	190	13	2906
	回答	55.9%	37.1%	6.5%	0.4%	100.0%

c . 養育者の知りたい情報

表41 養育者の知りたい情報

	1歳児	3歳児	5歳児	全体
(1)	これからの教育機関などの情報 (51.3%)	これからの教育機関などの情報 (44.4%)	これからの教育機関などの情報 (47.3%)	これからの教育機関などの情報 (47.2%)
(2)	急病時の対応法や病院の情報 (35.1%)	急病時の対応法や病院の情報 (34.3%)	急病時の対応法や病院の情報 (30.8%)	急病時の対応法や病院の情報 (33.0%)
(3)	生活習慣の自立のさせ方(排泄,食事など) (34.5%)	子どもへの接し方 (32.4%)	子ども同士の遊ばせ方 (29.9%)	子どもの遊び場所 (28.7%)
(4)	子どもの遊び場所 (30.2%)	子どもの遊び場所 (26.8%)	子どもの遊び場所 (29.5%)	子どもへの接し方 (28.3%)
(5)	子ども向けの食事の献立 (28.9%)	子ども同士の遊ばせ方 (26.2%)	子どもへの接し方 (27.9%)	子ども同士の遊ばせ方 (26.2%)
(6)	子どもへの接し方 (22.8%)	子ども向けの食事の献立 (20.8%)	子どもの事故防止対策 (22.3%)	子ども向けの食事の献立 (19.6%)
(7)	病気の予防など健康管理(予防接種情報など) (20.7%)	病気の予防など健康管理(予防接種情報など) (20.7%)	病気の予防など健康管理(予防接種情報など) (17.7%)	病気の予防など健康管理(予防接種情報など) (19.4%)
(8)	子ども同士の遊ばせ方 (19.6%)	子どもの事故防止対策 (17.2%)	子ども向けの食事の献立 (13.6%)	生活習慣の自立のさせ方(排泄,食事など) (18.1%)
(9)	保護者同士の交流の場 (10.7%)	生活習慣の自立のさせ方(排泄,食事など) (16.4%)	生活習慣の自立のさせ方(排泄,食事など) (10.7%)	子どもの事故防止対策 (17.5%)
(10)	子どもの事故防止対策 (8.8%)	保護者同士の交流の場 (9.8%)	保護者同士の交流の場 (8.5%)	保護者同士の交流の場 (9.5%)

どの年齢も教育機関（保育所・幼稚園・小学校・習い事）の情報が1位であり、急病時の対応等が2位であるが、3位は年齢別の特徴が出ており、1歳児は生活習慣、3歳児は子どもへの接し方、5歳児は子ども同士の遊ばせ方となっている。

子どもへの接し方、子ども同士の遊ばせ方に関する情報は、同年代の子どもや少し大きくなった子どもをもつ養育者たちとの交流から得られるものが多くあると考えられる。保育所や幼稚園等の関係機関はきめ細かな情報提供を行うとともに、養育者同士が相互に助け合いながら必要な情報を得ることができ、またそれによって悩みを解決していくことができる場を保障することも求められる。

d . 自由記述から伺える養育者の悩み

自由記述に見られる養育者の悩みをいくつかに分類することができるが、もっとも多いのは、きょうだいげんかや生活習慣等、その年齢の子どもとしては一般的な行動に関するものである。養育者自身が自分の子どもが生まれるまで、子どもと関わってきた経験が少ないためであろうが、子どものこういった行動が発育に見合った行動なのかが分からず、ひとつひとつが気になり、悩みとして抱え込んでしまうことがあるように思われる。2番目に多いのは親子のふれあいに関するもので、子どももっと関わりたいと思っているが、子どもとの言葉のやりとりに悩み、ついつい感情的にしかってしまうという内容である。その一方で、子どもからいったん離れ、母親自身がリフレッシュしたいと望んでいる姿も見られる。

自由記述全体から感じられるのは、子育てに関する意識は高いが、うまくいかずギャップに悩

んでいる養育者の姿である。子育て情報を提供する場や養育者を支援する制度は増えてきているが、そうした知識だけでなく、もう一步踏み込んで、養育者がこどもとのふれあいを心から楽しめるよう、保育所・幼稚園での行事等を通じて、養育者自身を育てていく多面的なアプローチが必要なのではないだろうか。

まとめ

子育てに関して養育者は、基本的な生活習慣についてはもっぱら家庭で身につけるべきものであり、学習への意欲・態度や対人的な能力は家庭と保育所・幼稚園の両方で育てていくものだと考えている。ただし、養育者自身の経験不足から子育てに戸惑い、その一方でこどもの年齢が3歳、4歳、5歳とあがっていくと、小さいときほど熱心にはこどもとふれあうことがなくなってくる。

養育者の悩みに応える細やかな情報提供だけでなく、親子のふれあいの場を保障し、また養育者同士が情報交換し、助け合えるような場を確保すること、そのような形で養育者自身が育つ場を作っていくことが求められる。

4 生活実態アンケート調査に基づく

「就学前児童健全育成プログラム」の課題と目標

基本的な考え方

大半の養育者は、こどもが基本的な生活習慣を身につけることの必要性や重要性を理解している。一方で、なかなか具体的な行動に移せないで悩んでいる養育者も多い。子育て支援の場や保育所・幼稚園でなすべきことは、望ましい養育者の姿(早く寝かせましょう等)を知らせるだけでなく、具体的に行動に移せる方法の提示と、ともに実現に向け努力することである。

こどもが成長していくうえで必要なことの中には、現代の家庭環境では実現が困難なものもある(例えば、集団での遊び、異年齢児同士の交流や地域での世代間交流、多様な季節行事の体験等)。このことを踏まえ、保育所や幼稚園においては、異年齢を含む集団活動や、伝承遊びと文化を踏まえたプログラムの実施等、多様な体験の機会を提供する必要がある。

在宅の親子(おもに1歳児)の課題と健全育成プログラムの目標

課題

養育者も含めて基本的な生活習慣が定着していない。それだけでなく身につけるための具体的な方法もよくわからない。

養育者が求める情報が、必要としている人に十分に伝わっていない。

目標(プログラムの視点)

親子の適切な愛着形成のため、親子のスキンシップやふれあい遊び、絵本の読み聞かせ等、具体的なこどもとの関わり方をプログラムとして提供する。

基本的な生活習慣の育成に向けた具体的な工夫の手立てを提示する。そのためのチェックリスト等の工夫をする(早く寝かせるための工夫、朝ご飯を食べさせるための工夫等)。

不安に対するきめ細かな情報提供と支援体制を整備する。

保育所・幼稚園にすでに就園している子どもたちの課題と健全育成プログラムの目標

課題

朝の生活に余裕がなく、夜の生活はやや弛緩している傾向がある。

年齢があがるにつれて、テレビやゲーム等のメディア接触が、遊びの中で大きな比重を持つようになる。

こどもが戸外で遊ぶ環境は、必ずしも十分ではない。

異年齢や集団での遊びが少なくなっている。

こどもが成長していくにつれ、養育者のこどもに関わる機会が減少している。

小学校への円滑な移行に向け、家庭と保育所・幼稚園の連携が求められている。

目標（プログラムの視点）

基本的な生活習慣を育成するための具体的な手立てを提示する。チェックリスト等を作成する。

こどもの年齢に応じた関わり方（集団遊びを含めたふれあい遊びの紹介、絵本の読み聞かせ等）を紹介する。

子育て関係機関等で、伝承的な遊び、季節行事等の多様な体験の場を提供し、こどもの健やかな成長と遊び文化の継承と創出を行う。

異年齢を含む集団での遊びの機会を増やすとともに、こどもの興味・関心を引き出す働きかけを充実させ、小学校以降の生活につながる対人的な能力や学習への意欲・態度を育成する。

テレビやゲーム等のメディア接触については、長時間視聴を減らす等メディアの適切な使い方について具体的な手立てを提示し、子育て関係機関等で家庭での取り組みを支援する。

大阪市内という都市部でも可能な自然とのふれあい方等、屋外でのこどもの活動を増やす手立てを提示する。